

PAT-NO: JP358107391A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 58107391 A

TITLE: TESTING METHOD OF PRINTING

PUBN-DATE: June 27, 1983

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

YAMAMIYA, SEIJI

KATSUME, HIRONORI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

FUJITSU LTD

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP56206051

APPL-DATE: December 22, 1981

INT-CL (IPC): B41M005/10, B41J003/00 , B41M005/02

US-CL-CURRENT: 346/21, 346/78 , 428/916

ABSTRACT:

PURPOSE: To save a resource to be used as well as reduce the cost of printing by a method in which an ink-erasable material is coated on the surface of a medium for testing, a test printing is made on the material, and after testing, printed ink is wiped away and the medium is reused for test printing.

CONSTITUTION: An ink-erasable material of vinyls 9, etc., is coated on the surface a base material 8 of paper, etc., to form a medium 1 for testing. The medium 1 is set on a platen 6 and a test printing is made on the medium 1 by striking it by a printing head 5 through an ink ribbon 7. After confirming the

printing, the printed ink is wiped away from the surface of test surface layer 2, and the medium 1 is again used for testing.

COPYRIGHT: (C)1983,JPO&Japio

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—107391

⑪ Int. Cl.³

B 41 M 5/10

B 41 J 3/00

B 41 M 5/02

識別記号

庁内整理番号

6906—2H

8004—2C

6906—2H

⑬ 公開 昭和58年(1983)6月27日

発明の数 1

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ 印字試験方法

⑮ 特 願 昭56—206051

⑯ 出 願 昭56(1981)12月22日

⑰ 発 明 者 山宮清治

川崎市中原区上小田中1015番地

富士通株式会社内

⑱ 発 明 者 勝目弘教

川崎市中原区上小田中1015番地

富士通株式会社内

⑲ 出 願 人 富士通株式会社

川崎市中原区上小田中1015番地

⑳ 代 理 人 弁理士 青木朗 外3名

明 細 書

1. 発明の名称

印字試験方法

2. 特許請求の範囲

1. 印字ヘッドによりプラテン上の媒体を打撃して該媒体上に印字を行う印字装置の印字試験方法において、印字打撃面にインク消去可能な試験表面層を設けた試験用媒体上に試験印字を行うことを特徴とする印字試験方法。

3. 発明の詳細な説明

(1) 発明の技術分野

本発明は印字試験方法に関し、特に印字ヘッドによりプラテン上の媒体を打撃して該媒体上に印字を行う印字装置の印字試験方法に関するものである。

(2) 技術の背景

工場で生産された多量の印字装置は出荷前に各印字装置毎に実際の使用条件に従って印字試験が行われる。このような印字試験は実際に使用する媒体(透帳、帳票、伝票、連続帳票等)を用い、

この媒体上に印字を行って、印字装置の各機能を試験するものである。

(3) 従来技術と問題点

従来の印字試験においては、試験印字を行う毎に新しい媒体を用い、一旦印字された媒体は使い捨てられていたため、多量の媒体が必要となり資源の浪費およびコスト増加の原因となっていた。

(4) 発明の目的

本発明は上記従来技術の欠点に鑑みなされたものであって、試験用媒体の再利用を行うことにより資源の節約およびコスト低下を図った印字試験方法の提供を目的とする。

(5) 発明の構成

この目的を達成するため本発明では印字ヘッドによりプラテン上の媒体を打撃して該媒体上に印字を行う印字装置の印字試験方法において、印字打撃面にインク消去可能な試験表面層を設けた試験用媒体上に試験印字を行っている。

(6) 発明の実施例

第1図は本発明の実施状態を示す印字装置の斜

概図である。連続形式の試験用媒体1の表面はインク消去可能な試験表面層2でコーティングされる。この試験用媒体1の表面には媒体送りローラ4の通路3が形成されこの部分には試験表面層2はコーティングされない。試験用媒体1はプラテン6上に配置されインクリボン7を介して印字ヘッド5により打撃され試験印字が行われる。試験表面層2としては第2図に示すように媒体を構成する基材(紙)8上にビニール9をコーティングしたものが用いられる。ビニール以外にもインクが染み込まない可塑性を有する樹脂その他のプラスチック材料をコーティングあるいは貼付することにより試験表面層2を形成してもよい。このような試験表面層2をコーティングした試験用媒体1は印字ヘッドによりプラテン上の媒体を打撃するインパクトブリッタの印字試験に限らずインクジェット式ブリッタ等の印字試験にも適用可能である。この試験表面層2上に試験印字を行い印字を確固後試験表面層2の表面を掃拭して印字したインクを試き取りこの試験用媒体1を再び使用

する。

特にインパクトブリッタの印字試験に用いるために第3図に示すように特殊材料(空気に触れると発色し一定時間経過後発色が消えるインク、あるいは印字したインクを時間経過とともに消去する化学材料)を封入したマイクロカプセル11を適当な溶剤10中に混入してこれを媒体基材8上にコーティングしたものをを用いてもよい。印字ヘッドの打撃によりマイクロカプセルが割れ印字が浮き出し、ある一定時間経過すると印字した文字が消える。従って、この試験用媒体を再び使用することができる。

なお、インク消去可能な試験表面層2は媒体を構成する紙の両面に設けてもよい。

(7) 発明の効果

以上説明したように、本発明に係る印字試験方法においては、試験用媒体表面にビニール等のインク消去可能な材料をコーティングしてこのビニール上に試験印字を行うことにより試験後に印字したインクを試き取りこの媒体を再び印字試験に

用いることができ、印字試験での媒体消費量を大幅に削減でき資源の節約およびコストの低下が達成される。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の実施状態を示す印字装置の斜視図、第2図および第3図は本発明に係る試験用媒体の各別の例の断面図である。

1……試験用媒体、2……試験表面層、5……印字ヘッド、6……プラテン、8……基材。

特許出願人

富士通株式会社

特許出願代理人

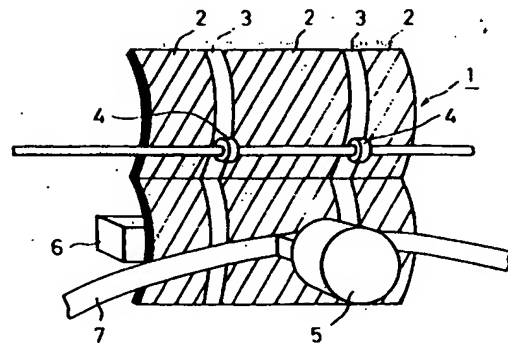
弁理士 青 木 明

弁理士 西 館 和 之

弁理士 内 田 幸 男

弁理士 山 口 昭 之

第 1 図



第 2 図



第 3 図

